

資料

長野県 2020 年平均寿命全国順位男性 2 位、女性 4 位に対する 30 歳未満の死亡の影響

小林良清

長野市保健所

抄録：2020 年都道府県別生命表における長野県の平均寿命全国順位が男性 2 位、女性 4 位となり、2015 年男性 2 位、女性 1 位に引き続き、長野県の平均寿命全国順位の後退傾向が続くことになった。その要因を推測するため、2020 年の年齢別死亡率を調べたところ、男性で 6 か月、4 歳から 7 歳までの各年齢、15 歳から 21 歳までの各年齢において、女性で 4 歳から 7 歳までの各年齢、21 歳から 24 歳までの各年齢において長野県の年齢別死亡率が全国 1 位の県や全国平均よりも特に高く、それらの死亡率（男性 6 か月を除く）が全国 1 位の県と同じだったと仮定すると、長野県の平均寿命が男女とも全国 1 位の県の平均寿命を上回った。

また、長野県における 2014 年から 2021 年までの年齢階級別死因別死亡数（2021 年は年齢階級別死亡数のみ）を分析したところ、男性において 15 歳から 19 歳まで、20 歳から 24 歳までで自殺を含む傷病・外因、傷病・外因以外のいずれも増えており、女性において 5 歳から 9 歳までの傷病・外因が増加し、20 歳から 24 歳までで自殺を含む傷病・外因、傷病・外因以外のいずれも増えていた。

これらのことから、長野県の平均寿命全国順位が後退傾向にあるのは、男女とも 30 歳未満の死亡率、死亡数が高く、特に、予防可能と考えられる、自殺を含む傷病・外因による死亡が多いことが影響していると考えられた。

2015 年都道府県別生命表において長野県の平均寿命全国順位が男性 2 位になったことに関して 10 代前半の死亡数・率の増加の影響が指摘されていたが、2020 年も同様の結果となったことから、長野県においては子どもや若い世代が命を失わないための対応や対策をさらに充実強化することが重要である。

Key words：都道府県別生命表（life tables of each prefecture）、2020 年平均寿命（life expectancy in 2020）、長野県（Nagano prefecture）、30 歳未満（under 30 years old）、死亡（death）

1. 目的

厚生労働省が 5 年に 1 回発表している都道府県別生命表の概況¹⁾等による長野県の平均寿命全国順位を見ると、男性は、1990 年から 2010 年まで 5 回連続 1 位だったが、2015 年に 2 位になり、女性は、2005 年 3 位、2010 年と 2015 年に 2 回連続 1 位だった。

2020 年都道府県別生命表の概況¹⁾において長野

(2023 年 5 月 31 日受付 2023 年 6 月 26 日受理)

連絡先：〒 380-0938 長野県長野市若里 6-6-1
長野市保健所
小林良清

E-mail：kobayashi-1bc3@city.nagano.lg.jp

県の平均寿命は、男性 82.68 歳、女性 88.23 歳であり、いずれも過去最高となったが、全国順位は、男性が 2 位（滋賀県が 1 位で 82.73 歳）、女性が 4 位（岡山県が 1 位で 88.29 歳）で、2015 年に続いて後退傾向となった。

2015 年において長野県の男性の平均寿命が全国 2 位に後退した要因として、小林は、年齢別死亡率を分析し、10 代前半の死亡数・率の増加が大きく影響していたと推測するとともに、これらの死亡数・率が全国 1 位の滋賀県と同様であった場合には平均寿命が滋賀県を超え、全国 1 位となること等を示した²⁾。

2020 年都道府県別生命表の概況¹⁾において長野県の平均余命全国順位を見ると、男性は、20 歳で 2

小林

位（滋賀県が1位）だが、40歳、65歳75歳でいずれも1位であり、女性は、20歳で4位（岡山県が1位）、40歳で1位、65歳で2位、75歳で3位であり、2015年と同様、2020年の長野県の平均寿命全国順位が1位から後退した要因として、若い世代の年齢別死亡率が高かったことが推測された。

この間、長野県は、未成年者の自殺率が全国の中でも高い水準にあることから、未成年者の自殺対策強化を目指して2018年8月に「長野県子どもの自殺対策プロジェクトチーム」を設置し、2019年3月に策定した「長野県『子どもの自殺ゼロ』を目指す戦略」³⁾に基づく対策を講じており、その成果を評価する観点からも若い世代の死亡の状況を分析する意義がある。

そこで、公表されている既存の統計資料等を活用して、2020年における長野県の平均寿命全国順位が男性2位、女性4位となったことに対して年齢別死亡率等がどのように影響しているかを明らかにする。

II. 方法

A. 都道府県別生命表の入手

政府統計の総合窓口（e-Stat）のウェブサイト⁴⁾から2020年の全国と長野県の男女別都道府県別生命表並びに全国1位となった滋賀県男性及び岡山県女性のそれぞれの都道府県別生命表をダウンロードし、週齢・月齢・年齢別の死亡率（以下「年齢別死亡率」

という。）を比較した。

B. 都道府県別平均寿命の計算式による平均寿命の試算

A. において長野県の年齢別死亡率が全国1位の県の年齢別死亡率と比較して特に高い年齢を確認し、その年齢における長野県の年齢別死亡率が全国1位の県と同程度だったと仮定した場合の長野県の平均寿命を算出した。

平均寿命の算出には小林が作成した都道府県別平均寿命の計算式²⁾を使用した。

C. 年齢階級別死因別死亡数の入手

長野県衛生年報（2014年から2020年まで）を用いて5歳ごとの年齢階級別死因別死亡数を得る⁵⁾とともに、2021年については、長野県衛生年報がまだ作成されておらず、e-Statのウェブサイトにある人口動態調査から都道府県別年齢階級別死亡数のみを得た⁶⁾。

都道府県別生命表では調査年の死亡数に前後1年ずつの死亡数を加えた死亡数が用いられているため、2020年の平均寿命については2019年から2021年までの3年間の死亡数（死因別死亡数は2019年から2020年までの2年間の死亡数）を、2015年の平均寿命については2014年から2016年までの3年間の死亡数をそれぞれ分析に使用した。

D. 倫理的配慮

使用している統計資料は、いずれも公表、公開さ

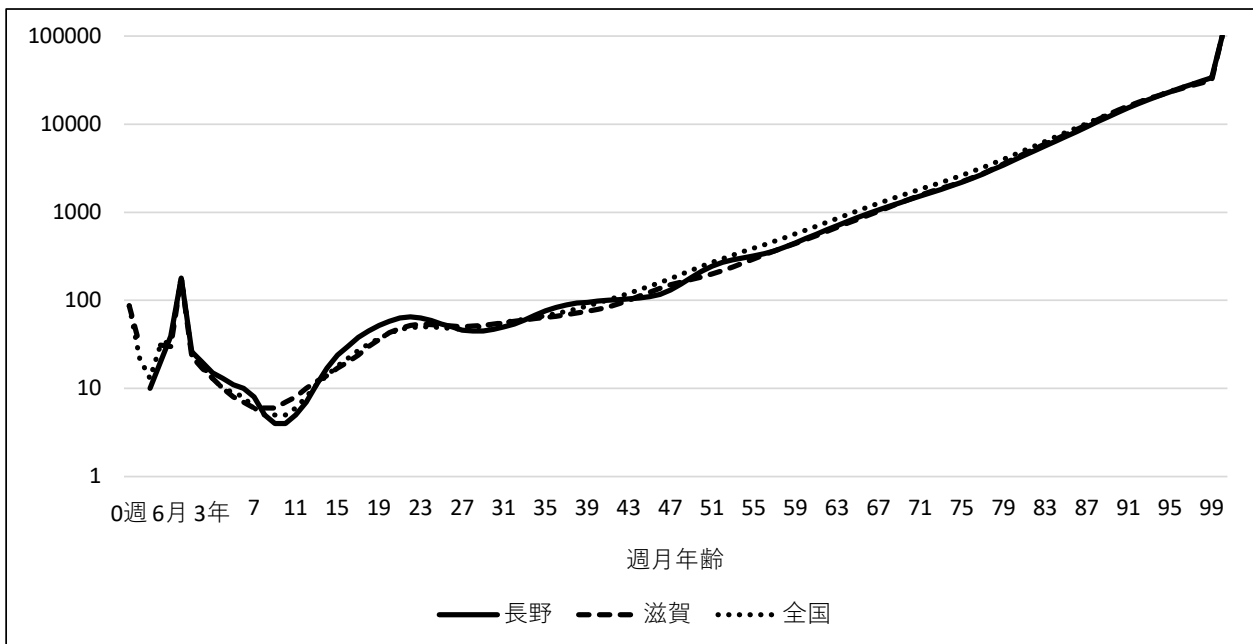


図1 2020年都道府県別生命表における男性の年齢別死亡率(人口10万対)

長野県平均寿命順位への30歳未満死亡の影響

れているものであり、個人が特定されるものは含まれていない。

Ⅲ. 結果

A. 2020年都道府県別年齢別死亡率

1. 男性

長野県、滋賀県、全国の2020年都道府県別年齢別死亡率を図1に示す。全体的には長野県、滋賀県、全国の方が近似しているが、0週から29歳までを拡大した図2を見ると、長野県では5歳周辺と19歳周辺で滋賀県や全国よりも特に高くなっていた。

滋賀県及び全国の年齢別死亡率に対する長野県の年齢別死亡率の比を表1に示す（長野県の年齢別死亡率が滋賀県の年齢別死亡率の1.3倍以上の年齢のみ）。6か月、4歳から7歳までの各年齢、15歳から21歳までの各年齢において長野県の年齢別死亡率が滋賀県の年齢別死亡率の1.3倍以上となっており、それ以外の年齢別死亡率はいずれもそれ以下となっていた。

また、6か月、4歳から7歳までの各年齢、15歳

から21歳までの各年齢において、長野県の年齢別死亡率は、いずれも全国の年齢別死亡率を上回っていた。

2. 女性

長野県、岡山県、全国の2020年都道府県別年齢別死亡率を図3に示す。30歳以上については、長野県、岡山県、全国の方が近似しているが、0週から29歳までを拡大した図4を見ると、長野県では5歳周辺と22歳周辺で岡山県や全国よりも特に高くなっていた。

岡山県及び全国の年齢別死亡率に対する長野県の年齢別死亡率の比を表2に示す（長野県の年齢別死亡率が岡山県の年齢別死亡率の2.0倍以上の年齢のみ）。4歳から7歳までの各年齢、21歳から24歳までの各年齢において長野県の年齢別死亡率は、岡山県の年齢別死亡率の2倍以上となっており、それ以外の年齢別死亡率はいずれもそれ以下となっていた。

また、4歳から7歳までの各年齢、21歳から24歳までの各年齢において、長野県の年齢別死亡率は、いずれも全国の年齢別死亡率を上回っていた。

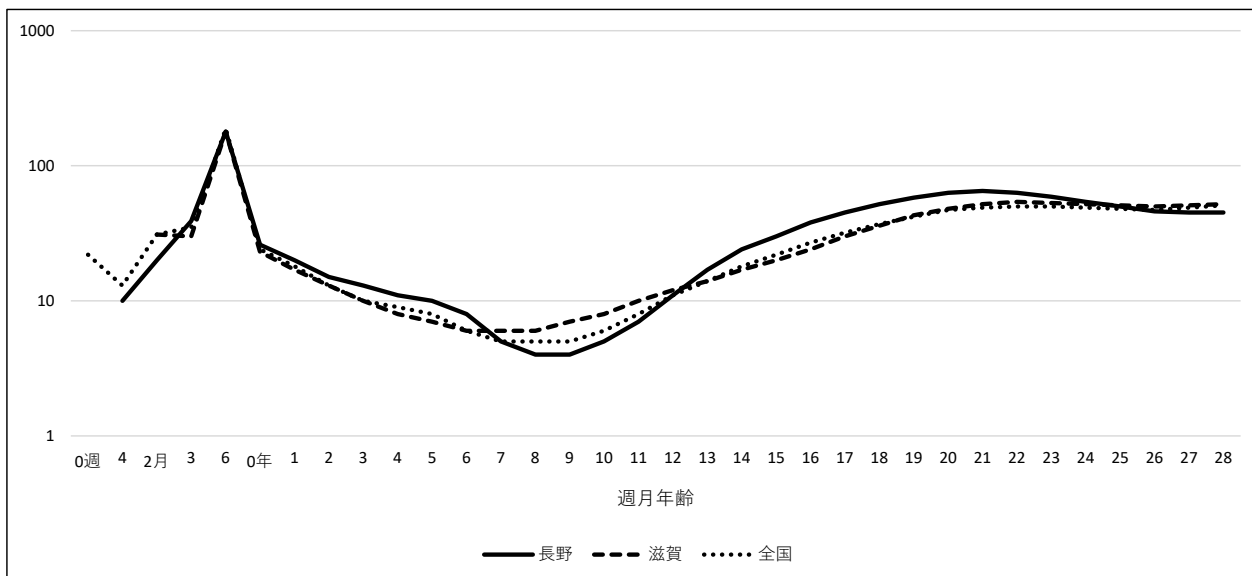


図2 2020年都道府県別生命表における男性の年齢別死亡率(人口10万対)(図1を拡大したもの)

表1 2020年都道府県別生命表における男性の年齢別死亡率(人口10万対)
(長野県の年齢別死亡率が滋賀県の年齢別死亡率の1.3倍以上の年齢のみ記載)

区分	6か月	4歳	5歳	6歳	7歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳
長野県	39	13	11	10	8	24	30	38	45	52	58	63
滋賀県	30	10	8	7	6	17	20	24	30	36	43	48
全国	35	10	9	8	6	18	22	27	32	37	42	47
長野県対滋賀県	1.30	1.30	1.38	1.43	1.33	1.41	1.50	1.58	1.50	1.44	1.35	1.31
長野県対全国	1.11	1.30	1.22	1.25	1.33	1.33	1.36	1.41	1.41	1.41	1.38	1.34

小林

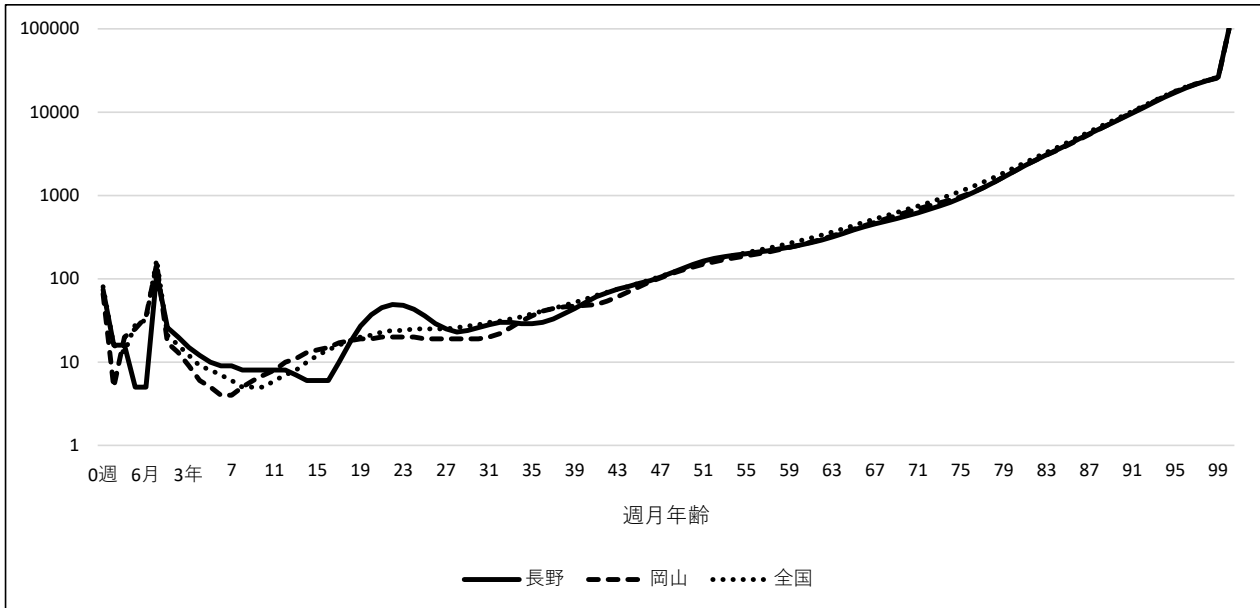


図3 2020年都道府県別生命表における女性の年齢別死亡率(人口10万対)

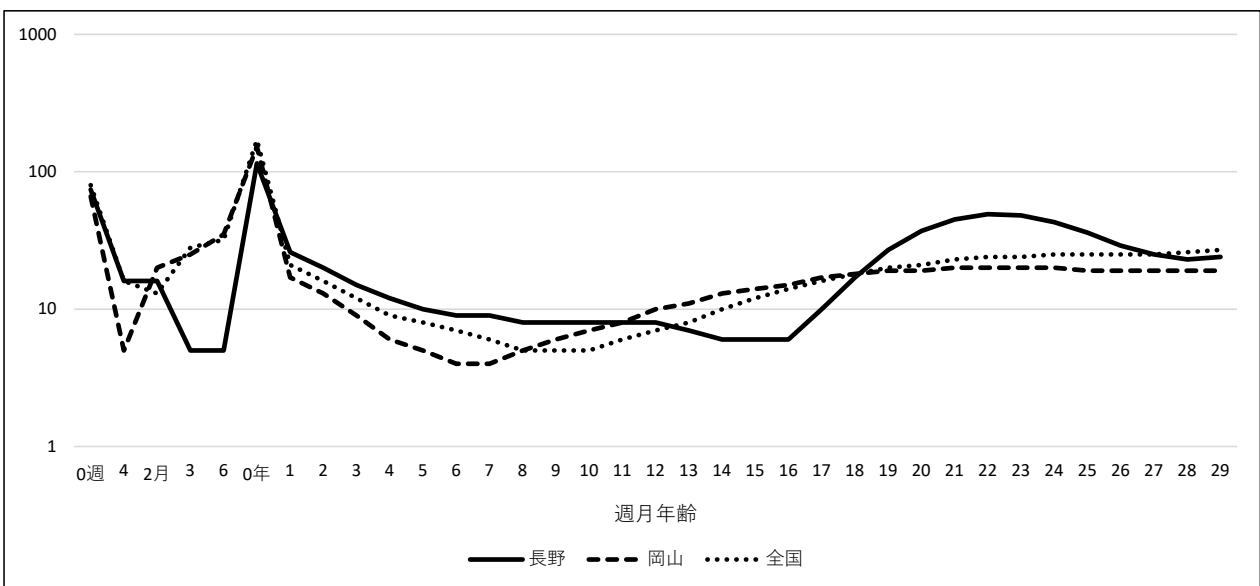


図4 2020年都道府県別生命表における女性の年齢別死亡率(人口10万対)(図3を拡大したもの)

表2 2020年都道府県別生命表における女性の年齢別死亡率(人口10万対)
(長野県の年齢別死亡率が岡山県の年齢別死亡率の2.0倍以上の年齢のみ)

区分	4歳	5歳	6歳	7歳	21歳	22歳	23歳	24歳
長野県	12	10	9	9	45	49	48	43
岡山県	6	5	4	4	20	20	20	20
全国	9	8	7	6	23	24	24	25
長野県対岡山県	2.00	2.00	2.25	2.25	2.25	2.45	2.40	2.15
長野県対全国	1.33	1.25	1.29	1.50	1.96	2.04	2.00	1.72

長野県平均寿命順位への30歳未満死亡の影響

B. 都道府県別平均寿命の計算式による平均寿命の試算

1. 男性

滋賀県の年齢別死亡率に対する長野県の年齢別死亡率の比は、表1のとおり、6か月、4歳から7歳までの各年齢、15歳から21歳までの各年齢において1.3倍以上となっていた。

そこで、先天性疾患等の影響が大きいと思われる6か月を除き、4歳から7歳までの各年齢、15歳から21歳までの各年齢における長野県の年齢別死亡率が滋賀県の年齢別死亡率に等しいと仮定して長野県の平均寿命を試算したところ、82.75歳となり、滋賀県の平均寿命である82.73歳を上回った。

次に、滋賀県の年齢別死亡率に対する長野県の年齢別死亡率の比が1.4倍以上となっている6歳、15歳から19歳までの各年齢における長野県の年齢別死亡率が滋賀県の年齢別死亡率に等しいと仮定して長野県の平均寿命を試算したところ、82.72歳となり、滋賀県の平均寿命を下回った。

以上から、長野県の平均寿命が滋賀県の平均寿命を上回るためには、長野県の年齢別死亡率が滋賀県の年齢別死亡率の1.3倍以上となっている4歳から7歳までの各年齢、15歳から21歳までの各年齢において、長野県の年齢別死亡率が滋賀県の年齢別死亡率のレベルまで低下する必要があることがわかった。

た。

2. 女性

岡山県の年齢別死亡率に対する長野県の年齢別死亡率の比は、表2のとおり、4歳から7歳までの各年齢、21歳から24歳までの各年齢において2.0倍以上となっていた。

そこで、岡山県の年齢別死亡率に対する長野県の年齢別死亡率の比が2.2倍以上となっている6歳、7歳、21歳から23歳までの各年齢における長野県の年齢別死亡率が岡山県の年齢別死亡率に等しいと仮定して長野県の平均寿命を試算したところ、88.30歳となり、岡山県の平均寿命である88.29歳を上回った。

次に、岡山県の年齢別死亡率に対する長野県の年齢別死亡率の比が2.4倍以上となっている22歳、23歳における長野県の年齢別死亡率が岡山県の年齢別死亡率に等しいと仮定して長野県の平均寿命を試算したところ、88.27歳となり、岡山県の平均寿命を下回った。

以上から、長野県の平均寿命が岡山県の平均寿命を上回るためには、長野県の年齢別死亡率が岡山県の年齢別死亡率の2.2倍以上となっている6歳、7歳、21歳から23歳までの各年齢において、長野県の年齢別死亡率が岡山県の年齢別死亡率のレベルまで低下する必要があることがわかった。

表3 長野県男性の年齢階級別死因別死亡数(2021年総数のみ)

年齢	死因	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
4歳	総数	4	1	0	1	1	0	1	0
	傷病・外因以外	4	1	0	1	1	0	1	-
5～9歳	総数	10	3	2	3	4	1	8	2
	傷病・外因	3	2	0	1	1	0	4	-
	不慮の事故	3	2	0	1	1	0	4	-
	自殺	0	0	0	0	0	0	0	-
	傷病・外因以外	7	1	2	2	3	1	4	-
15～19歳	総数	16	12	16	18	13	16	23	14
	傷病・外因	11	8	12	11	9	11	14	-
	不慮の事故	2	3	4	2	3	1	2	-
	自殺	8	5	8	9	6	10	11	-
	傷病・外因以外	5	4	4	7	4	5	9	-
20～24歳	総数	29	20	22	27	25	33	23	21
	傷病・外因	18	14	19	19	21	25	15	-
	不慮の事故	2	0	5	4	5	7	4	-
	自殺	16	13	14	15	14	18	11	-
	傷病・外因以外	11	6	3	8	4	8	8	-

C. 年齢階級別死因別死亡数

1. 男性

滋賀県の年齢別死亡率に対する長野県の年齢別死亡率の比が1.3倍以上となっている年齢を含む4歳、5歳から9歳、15歳から19歳、20歳から24歳について、2014年から2021年までの各年における年齢・年齢階級別死因別死亡数（2021年は総数のみ）を表3に示す。

そして、2020年の状況を前回の都道府県別生命表が算出された2015年の状況と比較するため、2014年から2016年までの年平均死亡数、2019年から2021年までの平均死亡数（死因別死亡数については2019年から2020年までの平均死亡数）を表4に示す。以下、表4による結果を記載する。

a. 4歳の場合

2019年から2021年までの3年間の死亡数は、2014年から2016年までの3年間の死亡数より減少していたが、それでも滋賀県の死亡率を上回った。

2019年から2020年までの2年間は、いずれも傷病・外因以外の死亡で、2014年から2016年までの3年間より減少していた。

b. 5歳から9歳までの場合

2019年から2021年までの3年間の死亡数は、2014年から2016年までの3年間の死亡数よりも減少していたが、それでも滋賀県の死亡率を上回った。

2019年から2020年までの2年間は、2014年から2016年までの3年間と比較すると、傷病・外因が増え、傷病・外因以外が減っていた。

c. 15歳から19歳までの場合

2019年から2021年までの3年間の死亡数は、2014年から2016年までの3年間の死亡数よりも増加していた。

2019年から2020年までの2年間は、2014年から2016年までの3年間と比較すると、自殺を含む傷病・外因、傷病・外因以外ともに増えていた。

d. 20歳から24歳までの場合

2019年から2021年までの3年間の死亡数は、2014年から2016年までの3年間の死亡数よりも増加していた。

2019年から2020年までの2年間は、2014年から2016年までの3年間と比較すると、自殺を含む傷病・外因、傷病・外因以外ともに増えていた。

表4 長野県男性の年齢階級別死因別死亡数(2年または3年の年平均)

年齢	死因	2014年	2015年	2016年	2019年	2020年	2021年
4歳	総数		1.7			0.3	
	傷病・外因以外		1.7			0.5	—
5～9歳	総数		5.0			3.7	
	傷病・外因		1.7			2.0	—
	不慮の事故		1.7			2.0	—
	自殺		0.0			0.0	—
	傷病・外因以外		3.3			2.5	—
15～19歳	総数		14.7			17.7	
	傷病・外因		10.3			12.5	—
	不慮の事故		3.0			1.5	—
	自殺		7.0			10.5	—
	傷病・外因以外		4.3			7.0	—
20～24歳	総数		23.7			25.7	
	傷病・外因		17.0			20.0	—
	不慮の事故		2.3			5.5	—
	自殺		14.3			14.5	—
	傷病・外因以外		6.7			8.0	—

長野県平均寿命順位への30歳未満死亡の影響

2. 女性

岡山県の年齢別死亡率に対する長野県の年齢別死亡率の比が2.2倍以上となっている年齢を含む5歳から9歳、20歳から24歳について、2014年から2021年までの各年における年齢・年齢階級別死因別死亡数（2021年は総数のみ）を表5に示す。

そして、表4と同様、2014年から2016年までの年平均死亡数、2019年から2021年までの平均死亡数（死因別死亡数については2019年から2020年までの平均死亡数）を表6に示す。以下、表6による結果を記載する。

a. 5歳から9歳までの場合

2019年から2021年までの3年間の死亡数は、

2014年から2016年までの3年間の死亡数よりも増加していた。

2019年から2020年までの2年間は、2014年から2016年までの3年間と比較すると、傷病・外因が減り、傷病・外因以外が増えていた。

b. 20歳から24歳までの場合

2019年から2021年までの3年間の死亡数は、2014年から2016年までの3年間の死亡数よりも増加していた。

2019年から2020年までの2年間は、2014年から2016年までの3年間と比較すると、自殺を含む傷病・外因、傷病・外因以外ともに増えていた。

表5 長野県女性の年齢階級別死因別死亡数(2021年総数のみ)

年齢	死因	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
5～9歳 総数	総数	1	4	2	3	2	4	3	3
	傷病・外因	1	1	1	2	0	0	0	—
	不慮の事故	1	1	0	1	0	0	0	—
	自殺	0	0	0	0	0	0	0	—
	傷病・外因以外	0	3	1	1	2	4	3	—
20～24歳 総数	総数	7	4	11	12	15	16	20	15
	傷病・外因	5	4	6	5	10	11	11	—
	不慮の事故	0	0	2	1	0	3	1	—
	自殺	5	4	4	4	10	8	8	—
	傷病・外因以外	2	0	5	7	5	5	9	—

表6 長野県女性の年齢階級別死因別死亡数(2年または3年の年平均)

年齢	死因	2014年	2015年	2016年	2019年	2020年	2021年
5～9歳 総数	総数	2.3		3.3			
	傷病・外因	1.0		0.0			—
	不慮の事故	0.7		0.0			—
	自殺	0.0		0.0			—
	傷病・外因以外	1.3		3.5			—
20～24歳 総数	総数	7.3		17.0			
	傷病・外因	5.0		11.0			—
	不慮の事故	0.7		2.0			—
	自殺	4.3		8.0			—
	傷病・外因以外	2.3		7.0			—

IV. 考察

A. 長野県男性の2020年平均寿命全国順位が2位になったことに対する30歳未満死亡の影響

長野県、滋賀県、全国の都道府県別年齢別死亡率が全体的には近似しているが、滋賀県の年齢別死亡率に対する長野県の年齢別死亡率の比を見ると、6か月、4歳から7歳までの各年齢、15歳から21歳までの各年齢において1.3倍以上であり、また、これらの年齢においては、長野県の年齢別死亡率がいずれも全国の年齢別死亡率も上回っていて、長野県の年齢別死亡率の高さが顕著となっている。

そして、4歳から7歳までの各年齢、15歳から21歳までの各年齢において長野県の年齢別死亡率が滋賀県の年齢別死亡率まで下がったとして長野県の平均寿命を計算すると、滋賀県の平均寿命を上回ることがわかった。

つまり、長野県男性の2020年平均寿命全国順位が2位になったのは、21歳までの特定の年齢における死亡率の高さが影響していることが示唆される。

そして、長野県における2019年から2021年までの3年間の死亡数を2014年から2016年までの3年間の死亡数と比較すると、4歳、5歳から9歳までで減少したものの、15歳から19歳まで、20歳から24歳までで増加しており、特に、10代後半から20代前半の死亡数の増加が目立つ。

この点について、2019年から2020年までの2年間の死因別平均死亡数を2014年から2016年までの3年間の死因別平均死亡数と比較してみると、4歳、5歳から9歳までで傷病・外因以外が減少したものの、5歳から9歳までで傷病・外因が増加し、15歳から19歳まで、20歳から24歳までで自殺を含む傷病・外因、傷病・外因以外のいずれも増えており、特に、10代後半から20代前半の自殺を含む傷病・外因による死亡数の増加が著しい。

以上のことから、長野県男性の2020年平均寿命全国順位が2位になったのは、21歳までの特定の年齢における死亡率が高く、また、5年前と比較して、10代後半から20代前半の死亡数、特に、自殺を含む傷病・外因による死亡数の増加が影響していることが推測される。

B. 長野県女性の2020年平均寿命全国順位が4位になったことに対する30歳未満死亡の影響

長野県、岡山県、全国の都道府県別年齢別死亡率

が全体的には近似しているが、岡山県の年齢別死亡率に対する長野県の年齢別死亡率の比を見ると、4歳から7歳までの各年齢、15歳から21歳までの各年齢において2.0倍以上であり、特に、22歳、23歳において2.4倍以上と高くなっており、また、これらの年齢においては、長野県の年齢別死亡率がいずれも全国の年齢別死亡率も上回っていて、長野県の年齢別死亡率の高さが顕著となっている。

そして、4歳から7歳までの各年齢、21歳から24歳までの各年齢において長野県の年齢別死亡率が岡山県の年齢別死亡率まで下がったとして長野県の平均寿命を計算すると、岡山県の平均寿命を上回ることがわかった。

つまり、長野県女性の2020年平均寿命全国順位が4位になったのは、24歳までの特定の年齢における死亡率の高さが影響していることが示唆される。

そして、長野県における2019年から2021年までの3年間の死亡数を2014年から2016年までの3年間の死亡数と比較すると、5歳から9歳まで、20歳から24歳までで増加しており、特に、20代前半の死亡数の増加が著しい。

この点について、2019年から2020年までの2年間の死因別平均死亡数を2014年から2016年までの3年間の死因別平均死亡数と比較してみると、5歳から9歳までで傷病・外因が減少したものの、5歳から9歳までの傷病・外因が増加し、20歳から24歳までで自殺を含む傷病・外因、傷病・外因以外のいずれも増えており、特に、20代前半の自殺を含む傷病・外因による死亡数の増加が目立つ。

以上のことから、長野県女性の2020年平均寿命全国順位が4位になったのは、24歳までの特定の年齢における死亡率が高く、また、5年前と比較して、20代前半の死亡数、特に、自殺を含む傷病・外因による死亡数の増加が影響していることが推測される。

C. 分析の限界等

小林が作成した平均寿命の計算式は、100歳以上の定常人口として都道府県別生命表に記載されているものを代用している²⁾。年齢別死亡率が低くなると、100歳以上の定常人口が都道府県別生命表に記載されているものより増えるが、都道府県別生命表に記載されているものを代用しているため、平均寿命が短く算定されることになる。今回、長野県の年齢別死亡率が全国1位の県の年齢別死亡率と同じだったと仮定した場合の平均寿命を算定しているが、

長野県平均寿命順位への30歳未満死亡の影響

100歳以上の定常人口を代用ではない計算式を用いれば、同じだったと仮定する年齢がここで提示したものよりさらに少なくなる可能性がある。

長野県衛生年報では4歳までは各年齢における死因別死亡数が掲載されているが、5歳以上については5歳階級ごとの死因別死亡数のみが掲載されている。2020年都道府県別生命表における年齢別死亡率や平均寿命の計算における年齢と長野県衛生年報を用いた年齢に差が生じてしまい、分析に限界が生じている。

また、2019年から2021年までの3年間（一部は、2019年から2020年までの2年間）の死亡数と2014年から2016年までの3年間の死亡数と比較しているが、それぞれの死亡の状況やその背景までの情報がないため、長野県の平均寿命全国順位が後退傾向にある要因と考えられる30歳未満の死亡の増加の理由まで推測することが困難である。

D. まとめ

平均寿命は、すべての年齢の死亡状況が反映された数字であり、単に高齢者が長寿であるかどうかを示すものではなく、平均寿命算定の元になっている

生命表における年齢別死亡率に着目した分析し、そこから課題を読み取ることが重要である。

2020年都道府県別生命表において、長野県の平均寿命全国順位が男性2位、女性4位となり、2015年の同男性2位、女性1位に続いて、長野県の後退傾向が続く形となった。

その要因を推測するため、2020年の年齢別死亡率、2014年から2021年までの年齢階級別死因別死亡数を分析したところ、男女とも30歳未満の死亡率、死亡数が高く、特に、予防可能と考えられる、自殺を含む傷病・外因による死亡が多く、これらが長野県の後退傾向に影響していることが示唆された。

2015年都道府県別生命表において長野県の平均寿命全国順位が男性2位になったことに関して、小林は、10代前半の死亡数・率の増加の影響を指摘したが、2020年も同様の結果となったことから、長野県においては子どもや若い世代が命を失わないための対応や対策をさらに充実強化することが重要である。

V. 利益相反

利益相反なし。

VI. 文献

- 1) 厚生労働省：令和2年都道府県別生命表の概況. <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/tdfk20/index.html> (2023年5月21日アクセス可能).
- 2) 小林良清：2015年都道府県別生命表における長野県男性の平均寿命全国2位後退に対する年齢別死亡率の影響について. 日本公衆衛生雑誌 Vol.65 No.10 : 615-619. 2018.
- 3) 長野県：「子どもの自殺ゼロ」を目指す戦略. <https://www.pref.nagano.lg.jp/hoken-shippei/kenko/kenko/seishin/kodomo-jisatsu-zero-senryaku.html> (2023年5月21日アクセス可能)
- 4) 総務省統計局政府統計の総合窓口 (e-Stat)：令和2年都道府県別生命表. <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450012&tstat=000001031336> (2023年5月21日アクセス可能).
- 5) 長野県：死亡数、性・年齢（5歳階級）・死因（死因分類）別. 衛生年報（平成23年～令和2年は <https://www.pref.nagano.lg.jp/kenko-fukushi/kenko/kenko/toukei/hokeneisei/index.html> (2023年5月21日アクセス可能)).
- 6) 総務省統計局政府統計の総合窓口 (e-Stat)：人口動態調査. https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450011&tstat=000001028897&cycle=7&year=20210&month=0&tclass1=0001053058&tclass2=000001053061&tclass3=000001053065&collect_area=100&result_back=1&tclass4val=0&metadata=1&data=1 (2023年5月21日アクセス可能).

Influence of death under 30 years old to that national rankings of life expectancy in Nagano prefecture 2020 are the second in male and the fourth in female

KOBAYASHI Yoshikiyo

Nagano City Health Office

National rankings of life expectancy in Nagano prefecture 2020 were the second in male and the fourth in female. Mortality rates of male in Nagano prefecture at 6 months old, each age between 4 and 7, and each age between 15 and 21 were higher than those in Shiga prefecture of which the ranking of life expectancy was the first. Similarly, mortality rate of female in Nagano prefecture at each age between 4 and 7 and each age between 21 and 24 were higher than those in Okayama prefecture of which the ranking of life expectancy was the first.

Accidents and suicide are the leading causes of death among younger people. Nagano prefecture should put more effort into reducing accidents and suicides among the younger generation.
